

272. 肝腫瘍診断における CEA と AFP の測定および⁶⁷Ga-citrate シンチグラフィの意義

京都大学 放射線科

石川 演美 吉井 正雄 坂本 力

藪本 栄三 小野山靖人 鳥塚 莞爾

放射線部

森田 陸司 藤田 透 中島 言子

放射性同位元素総合センター

浜田 哲

愛媛大学 放射線科

浜本 研

神戸中央市民病院

森 徹

原発性肝癌、転移性肝癌患者の⁶⁷Ga-citrate および^{99m}Tc-colloidによる肝シンチグラフィを行い、同時に患者血清中の carcinoembryonic Antigen (CEA) および alpha-feto protein (AFP) の測定を行ってこれら諸検査の組合せによる診断的意義について検討を行った。

CEA の測定には我々が行って来た 2 抗体法によって行い、AFP はダイナボット社製 RIA キットによって測定した。ヘパトーマでは AFP 値は正常値を 160ng/ml 以下とすると全例の 76% (28例) が異常値を示し、うち 36% (10例) は 10 μ g/ml 以上の値を示した。これに対して転移性肝癌では 39例中 1 例、肝硬変症では 13例中 2 例が陽性を示したにすぎない、CEA はヘパトーマにおいては 66% の陽性率であるが、ほとんど 60ng/ml 以下であったが転移性肝癌においてはさらに高値を示した例が多かった。AFP と CEA の関係を見ても、ヘパトーマは AFP 高値、CEA 低値を示し、転移性肝癌では AFP 正常で CEA 高値を示した。さらに⁶⁷Ga-Citrate によるシンチグラムではヘパトーマは 76% が高度に摂取し、転移性肝癌では摂取は低かった。またヘパトーマで高摂取の例は AFP 陰性例が多かった。従って両者の組合せを行ってみると、ヘパトーマの診断率は 67.5% となった。転移性肝癌では AFP 正常で CEA 高値を示すものが多く、AFP 正常で CEA 高値を示すヘパトーマは⁶⁷Ga シンチグラフィにより診断可能であり、CEA と AFP 測定および⁶⁷Ga シンチグラフィの組合せは肝癌の原発性または転移性の鑑別に有用であると考えられた。